

【はじめに】

私たちが今直面している社会は、かつてない速さで変化し続けています。情報化やグローバル化の波は日々私たちの生活に影響を与え、地域社会の形も大きく変わろうとしています。そんな時代だからこそ、私たちは変わらぬ情熱と覚悟を持ち、地域の未来を切り拓く役割を担わなければなりません。

私は 2026 年度のスローガンとして、「挑・楽・笑！（ちょうらくしょう） ～挑め、楽しめ、笑い飛ばせ～」を掲げました。この三文字には、私たち常滑青年会議所が進むべき道と心構えが凝縮されています。

まず「挑」は、挑戦から全てが動き出す。

壁や困難に果敢に挑戦する意思と行動力を示しています。変化を恐れず、新しい価値や可能性を追求し続けることが、組織としての成長、そして地域の発展につながると確信しています。

次に「楽」は、楽しさがあってこそ続けられる。

挑戦の中に楽しさを見出し、仲間との絆や喜びを大切にする心です。青年会議所の活動は決して楽な道ではありません。しかし、活動の中に楽しさを感じることで持続可能な組織となり、個々の成長とチームの活力を生み出します。

そして「笑」は、笑顔の力そのもの。

困難を乗り越えた先にある達成感と喜びを象徴し、笑顔の輪を広げることを意味します。その笑顔は人の心をつなぎ、地域全体の活力をもたらす最大の力です。

【笑顔で育む次の世代】

未来を担うのは、これから生きる子どもたちや若者です。彼らが夢や志を持ち、自信をもって社会に踏み出せる環境を整えることは、地域全体の未来を育むことにつながります。

現代の若者たちは、インターネットや SNS を通じて世界中とつながれる一方で、対面での交流が減り、自己肯定感や将来への自信を持ちにくい現状があります。また、挑戦の機会や失敗から学ぶ経験も不足しがちです。だからこそ、地域に根ざしたリアルな体験や仲間との協働の場が必要だと考えます。

青少年が挑戦を恐れず、失敗を糧に成長できる場をつくり、地域の学校や団体と連携し、学びや体験を通じて「やってみよう」と思える機会を提供していきます。そこで得られる経験は、子どもたち一人ひとりの自信となり、次の挑戦への力につながります。

さらに、活動の中で「楽しさ」や「仲間との絆」を感じられることを大切にし、笑顔で学び、笑顔で挑戦し、笑顔でつながる。そうした体験が若者の心に残り、地域への誇りや愛着が増すと考えます。

私たちは、現代の若者が直面する課題をしっかりと受け止め、笑顔を中心に据えた育成活動を通じて、次世代が自らの可能性を信じ、地域の未来を切り拓く力を育んでいきたいとおもいます。

そしていつの日か成長し、この常滑青年会議所の仲間として戻ってきてくれることを望み、その時また挑戦し、楽しみ、笑い合えることこそ、私たちの歩んできた道のりが間違いではなかったと証明する瞬間です。それは、過去から現在、そして未来へとつながる JC の存在意義そのものであり、地域の未来にとって最大の財産になると確信しています。

【まちを盛り上げる挑戦】

常滑には、豊かな自然、歴史あるやきもの文化、そして温かい人々という大きな魅力があります。さらに、私たちのまちには中部国際空港セントレアがあり、国内外をつなぐ大きな拠点として、多くの可能性を秘めています。こうした強みは、まちを盛り上げるための大きな力となります。

しかしその一方で、少子高齢化や地域経済の停滞といった課題も抱えています。こうした現状を見過ごすことなく、私たち一人ひとりが当事者意識を持って行動することが求められています。

私たちは、これらの課題を単なる問題として捉えるのではなく、新しい挑戦のチャンスへと変えていきたいと考えています。新たな発想や取り組みを生み出す課題の裏には、必ず未来を切り拓く可能性が眠っています。

まちを盛り上げるために大切なのは、挑戦する姿勢と楽しさ、そして人と人をつなぐ笑顔です。祭りやイベント、文化活動を通じて人が集い、世代を超えて交流し、笑顔があふれる場を生み出し、その笑顔こそがまちを元気にし、地域全体に活力を呼び込む原動力となります。まちを盛り上げるのは、行政や企業だけではありません。そこに暮らす一人ひとりの力が集まってこそ、大きなうねりとなります。子どもから大人まで幅広い世代が参加できる事業を展開し、「みんなで盛り上げる常滑」を目指していきます。

私たち常滑青年会議所は、挑戦し、楽しみ、そして笑顔でまちを盛り上げる存在として、地域に希望と活力を届けていきましょう。

【人財が支える組織基盤の強化】

地域にとって真に必要とされる存在意義ある団体となるためには、何よりもメンバー一人ひとりが成長し、誇りを持って運動に打ち込める組織であることが必要不可欠です。

私はそのために、確かな組織基盤を築き上げていくことが、今を生きる私たちに課された使命であると確信しています。

その第一歩は、私たち自身が運動の仕組みや目的を正しく理解し、仲間とともに挑戦し合い、互いに高め合える関係性を育むことにあります。そうした日々の積み重ねが、やがてメンバー一人ひとりの価値を高め、組織全体の力を底上げするのです。

この理念を具現化するために、私は、青年会議所運動を体系的に学ぶ機会の提供、世代や立場を超えた交流の場の創出、切磋琢磨し合える環境の整備を重点的に進めてまいります。

さらに、情報共有の質を高め、委員会間の連携を強化することで、より多くの意見が反映される開かれた運営を実現していきます。

また、一年間の運動を共に走り抜いたメンバーが、お互いの努力と成果を称え合い、未来への糧とできるような事業の実施も重要な柱の一つと考えています。このような取り組みは、組織への愛着と誇りを醸成し、次なる挑戦へのエネルギーを生み出します。

加えて、私たちの活動の価値を地域社会に正しく、そして魅力的に伝えていくために、あらゆる媒体や手法を活用し、広報活動にも取り組んでまいります。それにより、青年会議所運動の理解と共感を広げ、次代を担う仲間の育成にもつなげていきたいと考えています。

挑戦を恐れず、楽しさを分かち合い、笑顔で支え合う組織。

その根幹には、人財育成と透明性ある運営という二つの柱が確かに存在しています。

この両輪を力強く回しながら、私たち常滑青年会議所は、未来に向けて持続可能で活力ある団体へと成長し続けてまいります。

【結びに】

私自身、入会して6年が経ちますが、真剣に活動できたのは2022年に委員長を務めた一年だけです。あの時は人数も少なく、60周年事業もあり、全力で駆け抜けました。しかし、同じように走り続けることは容易ではありません。

また、自分勝手な性格から「いやだ」と思えば参加しないこともあり、当時の理事長をはじめ、多くのメンバーに迷惑をかけてしまったことも事実です。

それでも私を信じ、温かく声をかけ、支えてくださった仲間や先輩方がいたからこそ、今日の私があります。ここで改めて、これまでの歴史を築き、導いてくださった先輩方、そして共に歩んでくれた仲間に関心から感謝申し上げます。

だからこそ今は、肩の力を抜いて自然体で関わるからこそ見えてくるものがあると確信しています。一步を踏み出せば必ず挑戦が始まり、その中に楽しさが生まれ、最後には仲間と笑顔で振り返ることができる。それこそが青年会議所の力であり、地域を動かす原動力です。そしてその積み重ねこそが、まちから必要とされ、常滑に欠かせない組織へと私たちを成長させるのだと思います。

そして、地域にさらに必要とされる団体へ。地域に根付いた団体だからこそできる活動を進めてまいります。

理事長として先頭に立ち、挑戦を恐れず、楽しさを忘れず、そしてどんな困難も笑い飛ばす気持ちで一年間を駆け抜ける覚悟です。

私は、すべてのメンバーがこのスローガンに共感し、自らの活動に活かすことで、常滑青年会議所が地域に希望と活力をもたらす存在となることを願っています。そして、その挑戦の先に、地域の人々と共に分かち合う大きな笑顔が広がると信じています。

一年間どうぞよろしくお願いいたします。